



2019年4月24日

会社名 株式会社インターアクション
代表者名 代表取締役会長兼社長 木地 英雄
(コード番号 7725 東証第一部)

アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催いたしました

当社は、2019年4月12日(金)にアナリスト・機関投資家の皆様向けとして、2019年5月期第3四半期決算説明会を開催いたしました。

〈平成2019年4月12日(金) 17:30~18:30〉

1. 2019年5月期第3四半期業績サマリー及び決算詳細についてのご説明
(代表取締役副社長 木地 伸雄)
2. 2019年5月期通期連結業績予想についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
3. 質疑応答

ご説明内容及び質疑応答内容に関しましては、以下に添付しております資料をご参照下さい。

以上

お問い合わせ先：

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14F

株式会社インターアクション 経営管理部 IR担当 宛

TEL 045-788-8373 FAX 045-788-8371 Eメール：ir@inter-action.co.jp

決算説明会

2019年5月期(第27期)第3四半期
(2018年6月1日 ~ 2019年2月28日)



目次

1. サマリー

- ① TOPICS
- ② 業績サマリー

2. 決算詳細

- ① IoT関連事業
- ② 環境エネルギー事業
- ③ インダストリー4.0推進事業
- ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
- ⑤ 受注高・売上高・受注残高

3. 2019年5月期 通期連結業績予想

1. サマリー

① TOPICS

第三者割当による第10回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行を決議（2019年2月14日）

<実施の理由>

現在のイメージセンサビジネスが予想以上のスピードで拡大しており、売上の増加と共に運転資金の増加も見込まれます。そのため、現状のキャッシュおよびコミットメントラインによる借入枠（20億）は、今後既存事業への充当が必要になると予想しております。

一方で、当社は2019年1月11日に開示した中期事業計画に基づき、2つの新規事業の立上げを行っております。今回の新株予約権により調達した資金は、これらの事業を確立するために活用する予定であります。

当社グループの継続的な事業成長および企業価値の向上にむけた新たな挑戦をぜひ応援頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

第10回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行による調達（S M B C日興証券への第三者割当）	
調達の概要	<ul style="list-style-type: none"> 想定調達額： 約44億円（差引手取概算額） 潜在株式数： 2,000,000株（希薄化率（対議決権総数）20.78%） 行使可能期間：約3年間（2019年3月5日～2022年2月28日）
資金使途	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規事業に係るM & A及び資本・業務提携のための待機資金（約27億円充当） ② 新規事業に係る設備投資資金（11億円充当） ③ 新規事業の立ち上げ及び基盤構築に係る研究開発費及び人材採用費等（6億円充当）

<新株予約権の行使進捗率（2019年4月10日 開示時点）>

発行した全新株予約権個数：20,000個

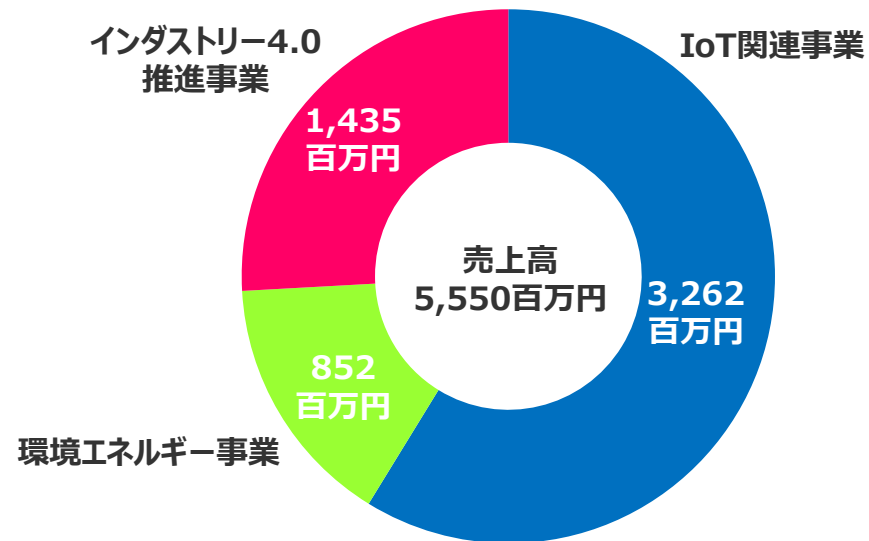
・行使済個数：14,402個（1,440,200株）

・残存個数：5,598個（559,800株）

・進捗率：72.0%

② 業績サマリー

- 環境エネルギー事業およびインダストリー4.0推進事業においては、前年とほぼ同水準で推移した。
- IoT関連事業セグメントは前年と比べ引き続き好調に推移し、売上及び利益のトップラインを押し上げている。



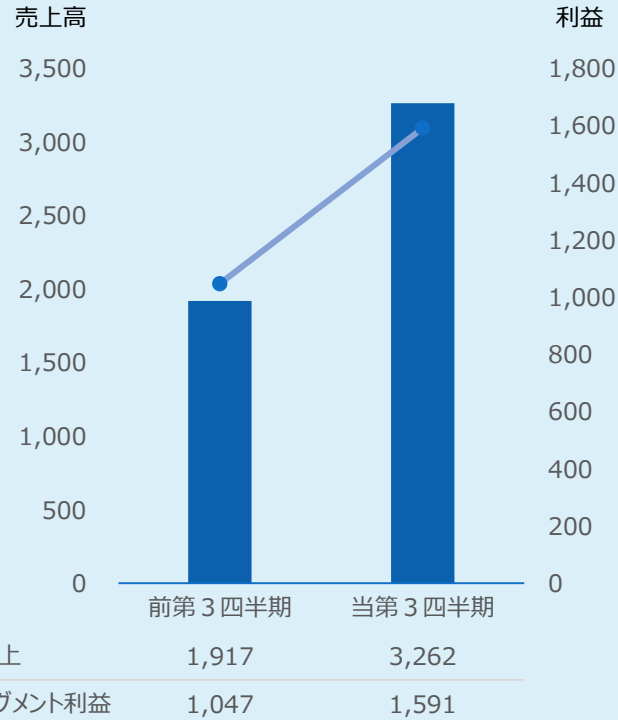
(百万円)	前第3四半期	当第3四半期	前年比増減率
売上高	4,206	5,550	32.0%
営業利益	678	1,206	77.8%
経常利益	689	1,180	71.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	470	764	62.4%
1株当たり四半期純利益	49.74円	80.26円	-

2. 決算詳細

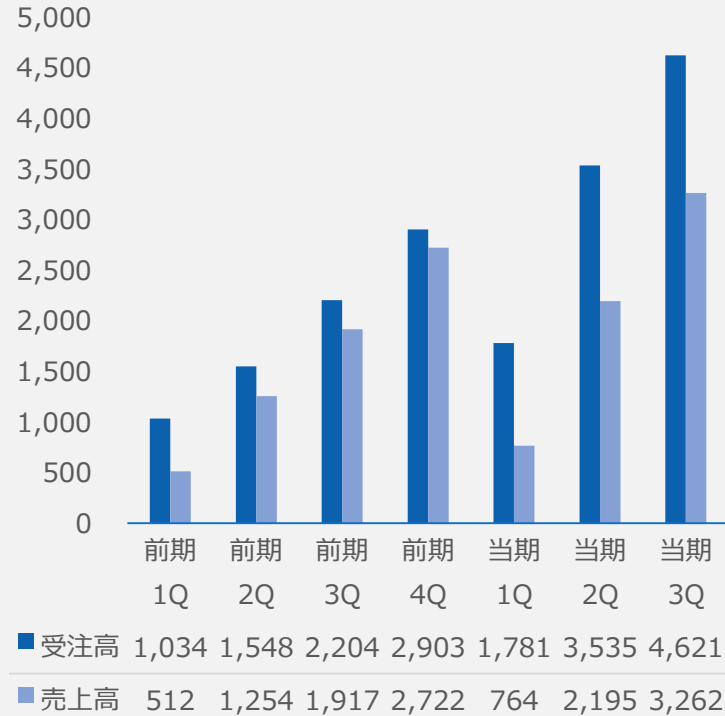
① IoT関連事業

引き続き、当社グループの主力製品であるCCD及びCMOSイメージセンサ向け検査用光源装置及び瞳モジュールの販売は好調に推移。

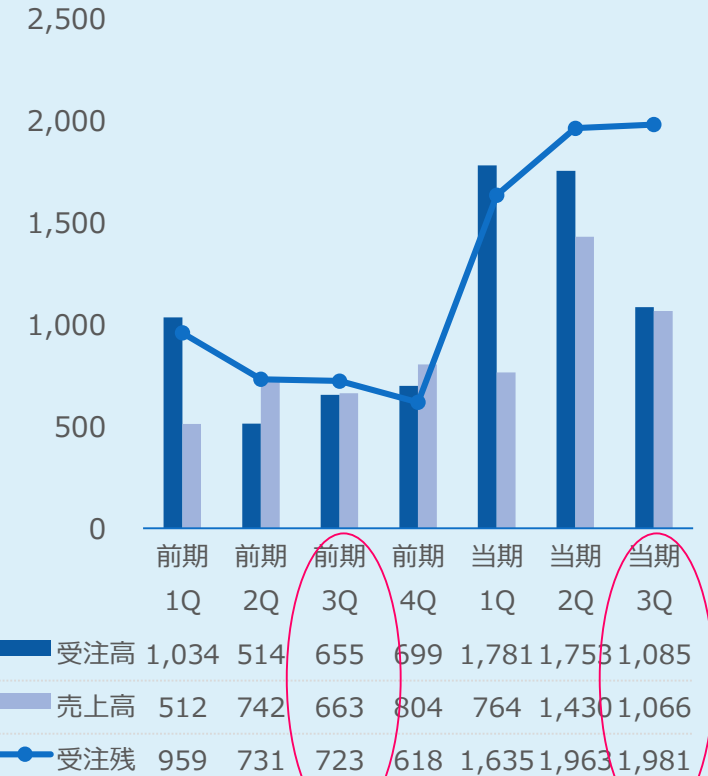
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移 (累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

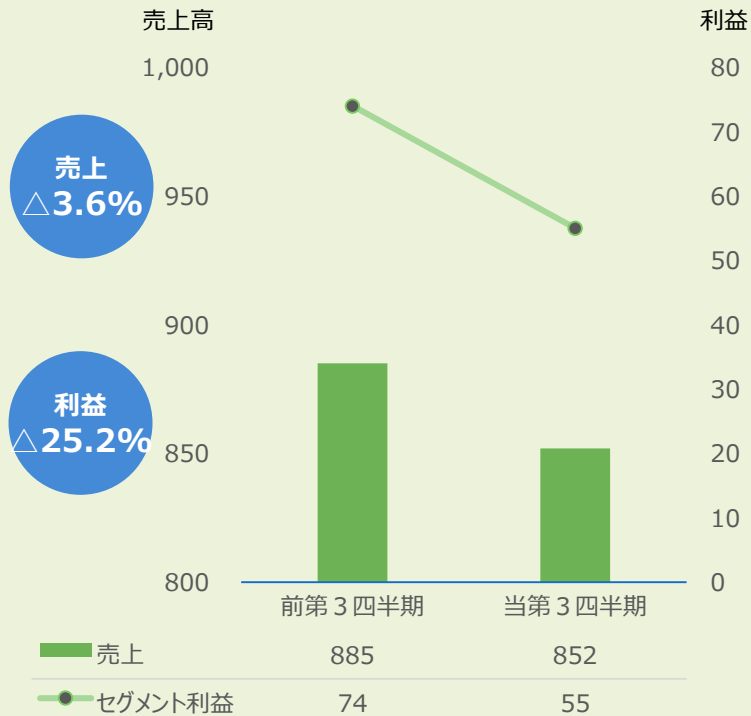
単位：百万円

単位：百万円

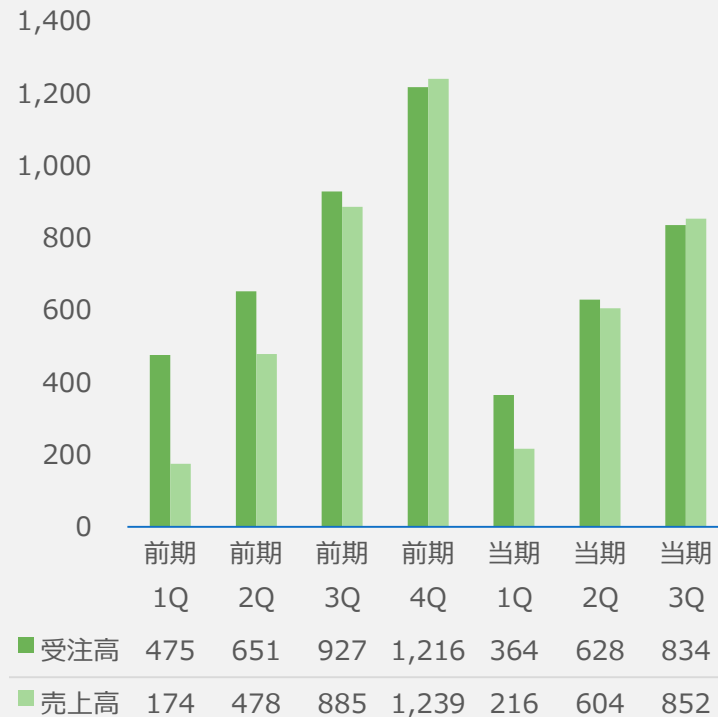
② 環境エネルギー事業

- 印刷関連の乾燥脱臭装置や排ガス処理装置の大型工事が第2四半期連結会計期間に集中していたため、売上が落ち着いた状況となった。
- 中国向け排ガス処理装置の初号機の納入が完了し、海外展開を積極的に推進中。

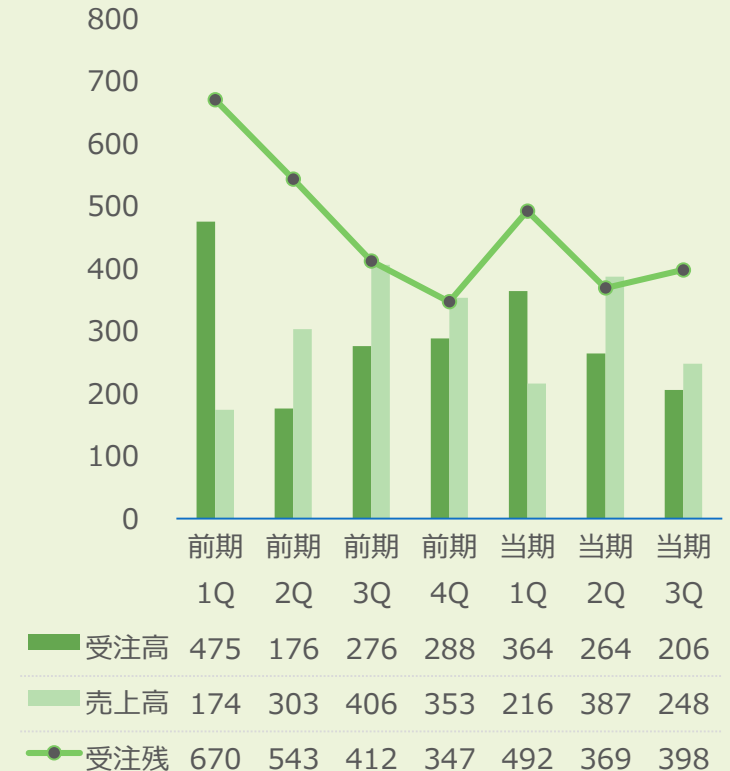
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移 (累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

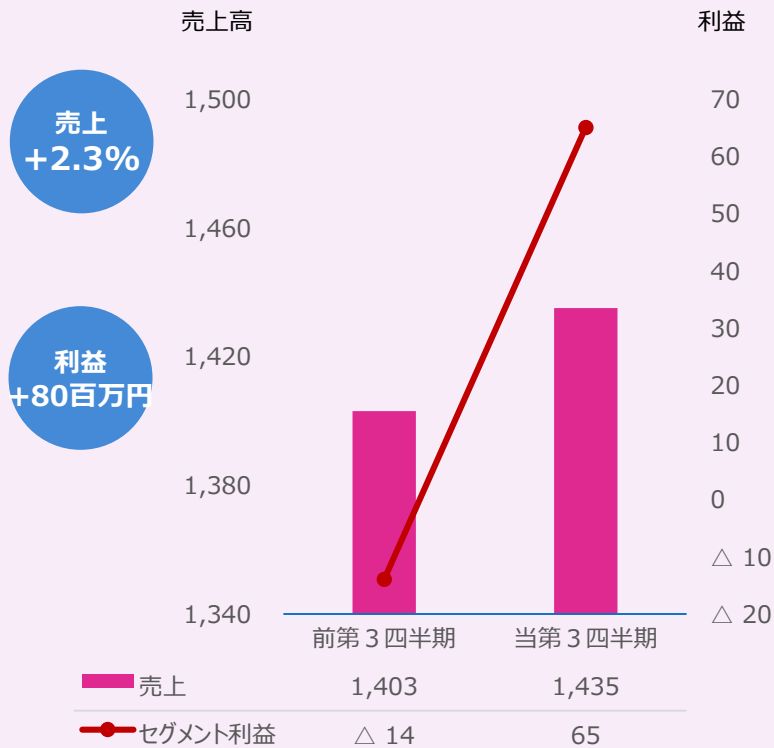
単位：百万円

単位：百万円

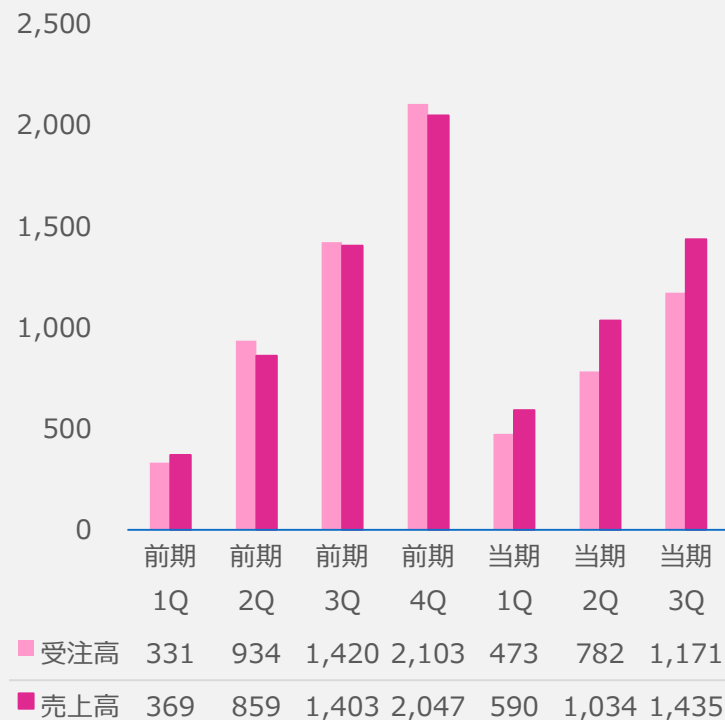
③ インダストリー4.0推進事業

- 精密除振装置の国内需要は比較的好調であったものの、海外メーカーの設備投資意欲は引き続き落ち着いた状況となった。
- 歯車業界においては、顧客の設備投資意欲はあるものの、米中の関係悪化の影響によって設備投資判断が慎重となっている状況であり、歯車試験機の売上は落ち着いた状況となった。

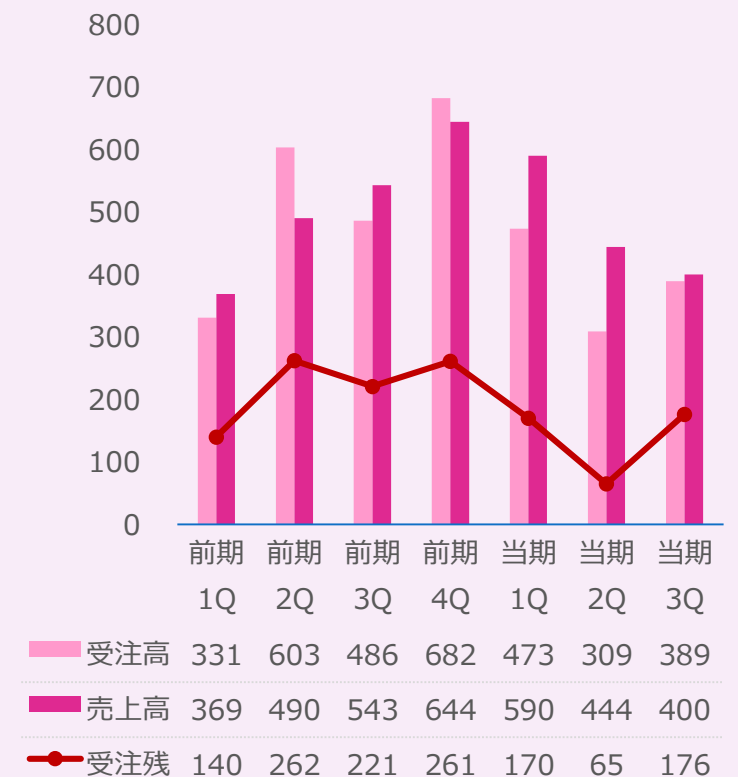
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移 (累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位：百万円

単位：百万円

単位：百万円

④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

連結貸借対照表

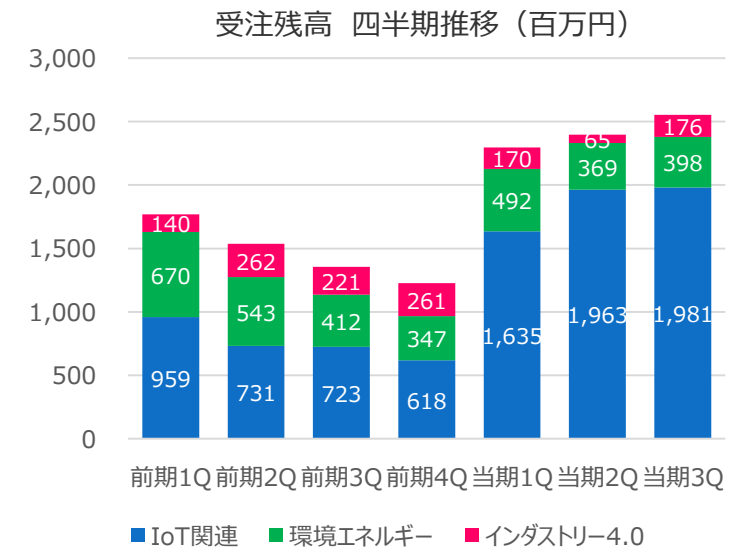
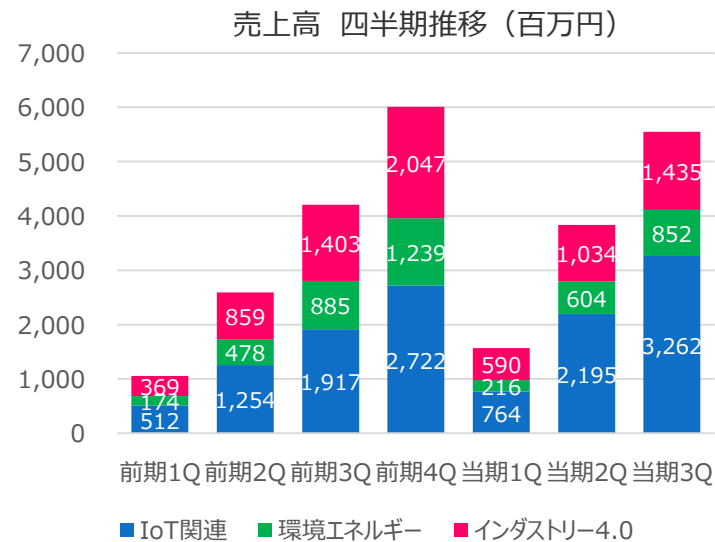
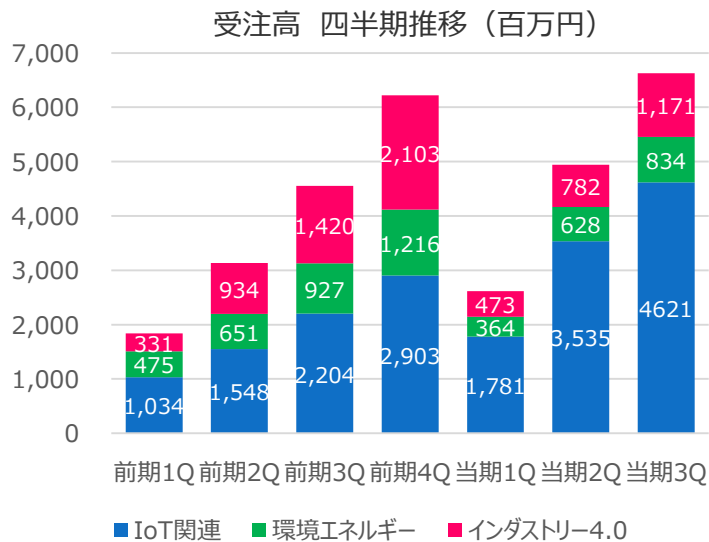
(百万円)	2018年	2019年	負債	2018年	2019年
	5月期	第3四半期		5月期	第3四半期
資産			負債		
資産 計	6,573	7,145	負債 計	2,891	2,755
流動資産	5,238	5,736	流動負債	1,871	1,958
固定資産	1,335	1,409	固定負債	1,019	796
有形固定資産	635	697			
無形固定資産	475	429	純資産		
投資・その他の資産	224	282	純資産 計	3,682	4,390
			株主資本	3,668	4,396
			資本金	610	610
			資本剰余金	1,570	1,570
			利益剰余金	1,804	2,443
			自己株式	△317	△228
			その他の包括利益累計額	14	△6
資産 合計	<u>6,573</u>	<u>7,145</u>	負債・純資産合計	<u>6,573</u>	<u>7,145</u>

連結損益計算書

(百万円)	前第3四半期	当第3四半期
実績		
売上高	4,206	5,550
売上原価	2,322	2,993
売上総利益	1,883	2,557
販売費及び一般管理費	1,205	1,350
営業利益	678	1,206
経常利益	689	1,180
特別利益	-	0
特別損失	1	3
税金等調整前四半期純利益	687	1,177
法人税、住民税及び事業税	199	426
法人税等調整額	17	△13
法人税等合計	216	412
四半期純利益	470	764
親会社株主に帰属する四半期純利益	470	764

⑤ 受注高・売上高・受注残高

事業セグメント (百万円)	受注高		売上高		受注残高	
	当第3四半期	前年比増減率	当第3四半期	前年比増減率	当第3四半期	前年比増減率
IoT関連事業	4,621	109.7%	3,262	70.1%	1,981	173.8%
環境エネルギー事業	834	△10.0%	852	△3.6%	398	△3.4%
インダストリー4.0推進事業	1,171	△17.5%	1,430	2.3%	176	△20.4%
合計	6,627	45.6%	5,550	32.0%	2,557	88.2%



3. 2019年5月期 通期連結業績予想

3. 2019年5月期 通期連結業績予想

- イメージセンサ業界は、スマートフォンカメラの複眼化によるイメージセンサ需要及び3Dセンシング向けイメージセンサ需要が高まっていくと想定し、メーカーの設備投資意欲は好調に推移すると予想
- 一方でフラットパネル・有機ELディスプレイ業界及び印刷業界の国内の設備投資は堅調に推移すると予想

(百万円)	2018年 5月期実績	2019年 5月期予想	前年比 増減率
売上高	6,009	7,158	19.1%
営業利益	1,006	1,421	41.2%
経常利益	988	1,401	41.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	686	895	30.4%
1株当たり当期純利益	72.58円	92.13円	—

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/

もしくは下記QRコードよりご登録下さい

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみを使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい

<http://www.inter-action.co.jp/privacy/>



お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階

TEL : 045-788-8373 FAX : 045-788-8371

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい





注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。



appendix - 会社紹介 -

会社概要

Company profile

商号
株式会社インターアクション
INTER ACTION Corporation

上場市場
東京証券取引所
市場第一部

設立
1992年6月25日

証券コード
7725

代表者
代表取締役会長兼社長 木地 英雄

事業年度
自6月1日 至5月31日

資本金
610百万円

URL
<http://www.inter-action.co.jp>

従業員
151名（2018年5月末時点 グループ全体）

グループ会社
株式会社エア・ガズ・テクノス
明立精機株式会社
株式会社東京テクニカル
西安朝陽光伏科技有限公司
陝西明立精密设备有限公司
MEIRITZ KOREA CO.,LTD
Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp.

本社所在地
神奈川県横浜市金沢区福浦1-1
横浜金沢ハイテクセンター14階
TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371

事業所
横浜市中区・千葉市中央区・熊本県合志市

経営方針

Strategy

重要指標

Equity Spread
ROE
WACC

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

2019年4月12日

質疑応答(抜粋)

質問 1 : IoT 関連事業に関して、第 1 四半期及び第 2 四半期と比較して第 3 四半期の受注高について教えて欲しい。又、第 4 四半期の受注高は維持されるのか教えて欲しい。

回答 1 : 当社の傾向として、第 1 四半期及び第 2 四半期で 受注を取り第 3 四半期及び第 4 四半期で売上になります。特に、第 4 四半期は毎期、正念場となります。第 4 四半期の受注高を示すことは困難ですが、引き合いは国内外ともに強い状態にあります。第 4 四半期について懸念材料はございません。来期に関しても堅調に推移すると認識しております。当社としては製品のリニューアルを図り、製品ごとの利益率を高めていきたいと考えております。

質問 2 : 主力製品である光源装置及び瞳モジュールの、第 3 四半期までの受注は、どちらが多かったのか教えて欲しい。また、お客様の志向を教えて欲しい。

回答 2 : 第 3 四半期の受注内容については、第 1 四半期及び第 2 四半期と比較して瞳モジュールが増えています。設備投資として光源装置が稼働をしたあとに、瞳モジュールが稼働していると想定しております。光源装置は用途ごとにスペックが異なりますが、傾向としては、今までなかった光の波長域に対するソリューションを求められております。RGB の可視光域から NIR など近赤外を使った製品の引き合いが増加しております。

質問 3 : イメージセンサの種類は RGB よりも近赤外が増加傾向にあるという認識で間違いはないか教えて欲しい。

回答 3 : 近赤外のソリューションとしては監視カメラ、車載カメラなど多岐に渡るが、距離をはかる用途がございます。当社が納めている光源装置が最終的にどのセンサーに使われるのか判断は非常に難しく、精査はいたしますが、確信をもって申し上げる状況にはございません。

質問 4 : IoT 関連事業の第 3 四半期の受注に関して光源装置より瞳モジュールの受注が伸びたとありますが、第 2 四半期と比較した状況を教えて欲しい。瞳モジュールの受注増加に比べると、光源装置の受注増加が少ないと感じている。日系や韓国メーカーの設備投資意欲が弱くなっていることへの懸念はないか教えて欲しい。また、瞳モジュールの受注に関して、日系メーカーの稼働状況から考えると 1 月～

3月は落ちているが、それでも瞳モジュールの受注が伸びているのは、複眼化の流れの中で瞳モジュールの使用方法が広がっているという認識でいいか教えて欲しい。

回答 4： 受注に関して四半期ごとの製品別での正確な数字はございません。現場から報告を受ける中で瞳モジュールが多かったと認識しております。設備投資意欲に関して心配はしておりません。光源装置についてはお客様から毎月大きな設備投資があるわけではございません。先方の事業の担当者様がトップマネジメント層に設備投資の依頼をしていると思います。また、スマートフォンが一眼のままだった場合、瞳モジュールの受注については、ここまで増加しなかったと認識しております。瞳モジュールの複眼化の中で、高スペック及びロースペックなものもあり、2分化も始まっております。当社としては、高スペックなもので利益を出したいと考え、戦略をもった製品開発を実行して参ります。

質問 5： 3月に大口受注が3件リリースされており、合計して約9億円ということを踏まえ、心配していないという認識でいいか教えて欲しい。

回答 5： 全体の状況を考えて心配はしておりません。今後、自動車向けイメージセンサなどの設備投資も始まっていくだろうと考えております。

質問 6： 新規事業について、必ずレーザー加工機市場とFA画像処理市場の2つを進めていくことで決定しているのか教えて欲しい。（他の新規事業に変わる可能性はあるか）

回答 6： 3年は必ずやっていきます。事業をするにはそのくらいの時間がかかると考えておりますし、3年は2つの方向で行きたいと考えております。

レーザー加工の短期的ゴールとしては、セラミックの微細加工に挑戦させていただきたいと考えています。扱いつらい光を扱えるようにすること、そしてそれを製品化してお客様のラインに入れること。製品の安定性が難しいと思うが、そこができるのは光の技術がある当社であると考えています。

FA画像処理も金属の画像処理に挑戦しておりまして、当社の子会社の東京テクニカルが持っているお客様より既に引き合いを頂いております。金属は光沢があるので光が乱反射し、画像処理が難しい。光の調整の部分で当社が役立てるだろうと思っている。そういったことができれば、マーケットも大きなところに属しているので、競争優位が認められれば、営業利益率やセグメント利益等が上がっていくと考えている。現時点ではそこまで大きな設備投資は考えておりません。
